

好天候にも恵まれ5月17日(土)古都奈良にて、カナダから参加頂いた齋藤智OBを始めとして、過去最高の29名の会員の出席のもと、第5回定例懇談会を開催しました。

今回のテーマは、学ぶPART2「奈良古都 新発見!」です。

＜参加者＞敬称略 (29名：部分参加も含む)

白石 英也 (S32経)	齋藤 智 (S36経)	増田 登 (S40商)
由良 豊一 (S40商)	相本 琢郎 (S41法)	酒井 克己 (S42法)
松尾 哲雄 (S47経)	三角 竜二 (S49工)	松本文一郎 (S50文)
鎌田 誠 (S51法)	青嶋 義晴 (S52工)	西村 元秀 (S53商)
袖岡 稔 (S55商)	山代 和也 (S55法)	阪本 光宏 (S61商)
小堀 誠 (S63商)	片桐 民陽 (H02理)	竹崎 誉 (H02法)
豊田 秀明 (H03理)	茂木 裕康 (H03商)	三坪 雅典 (H04理)
浄住 徹朗 (H05経)	渡邊 正勝 (H06理)	小早川 直哉 (H10商)
兵藤 公治 (H10理)	脇田 圭吾 (H12総)	四元 秀幸 (H13総)
柿堺 悠 (H24理)	松永 修 (S58工)	



写真1. 講演① 片桐准教授



写真2. 講演② 渡邊准教授

I 第1部 歴史ある国立大学の学び舎にて学ぶ 13:10~14:50

奈良女子大学記念館（重要文化財）において、塾歌斉唱
由良会長挨拶の後に、寄宿舍OBであるお二人から講演をして頂きました。

- ・片桐民陽OB 奈良女子大学研究員自然科学系数学領域 准教授
- ・渡邊正勝OB 大阪大学大学院 生命機能研究科 准教授

講演① 片桐准教授（写真1）

演題：国立大学法人奈良女子大学の沿革」および
「数学者岡潔と女子教育」

奈良女子大学は、1890年に女子高等師範学校として、創立されたが、三度の困難な時期（奈良女子大創立、戦後の学制改革、国立大学法人削減）を乗り越えてきた。その奈良女子大学を支えた一人が、数学者岡潔先生である。岡先生が多変数解析関数論は世界的にも大きな評価を得、湯川秀樹先生や朝永振一郎先生にも大きな影響を与えた。また、女子の教育者としても優れた業績を残され、男子は「知・意・情」の順で動くが、女子は「情・知・意」



写真3. 講演後写真(奈良女子大学記念館)

で動くため、良い子供を育てるためには、情緒豊かな女子の教育が必要。加えて、女子大学は心の古里である奈良が最適であるとの考えのもと、奈良女子大の教育に力を注がれた。

講演② 渡邊正勝准教授（写真2）

演題:「生物の形をつくるメカニズム」

生物進化の過程で多くの「種」が作られてきた。ここには、雌雄間の好みに関する形質(体色・フェロモン・活動時間など)に関する多くの遺伝子が関係している。生物の体表模様の形成は簡単な数式で示される。ここに関与する遺伝子を人工的に操作することにより、様々な模様を動物(魚)の皮膚の上に描くことが可能である。

このように、片桐准教授には、古都奈良、そして奈良女子大を愛する岡潔先生に、奈良女子大は育てられた事を教えて頂きました。

また、渡邊准教授には、研究をする中で出会ったく生きた化石:シーラカンス>の話題も織り込み、楽しく解り易く、現在行っておられる研究についての話を頂きました。その後、重要文化財である奈良女子大学記念館で写真に収まりました。(写真3・4)

Ⅱ 第2部 古都奈良散策 隠れた名所めぐり 15:00~16:50

奈良女子大学をあとに、奈良県庁(展望台)、興福寺(三重塔)を経て、浮見堂へ(写真5)、五月晴れの奈良の街を皆で散策しました。

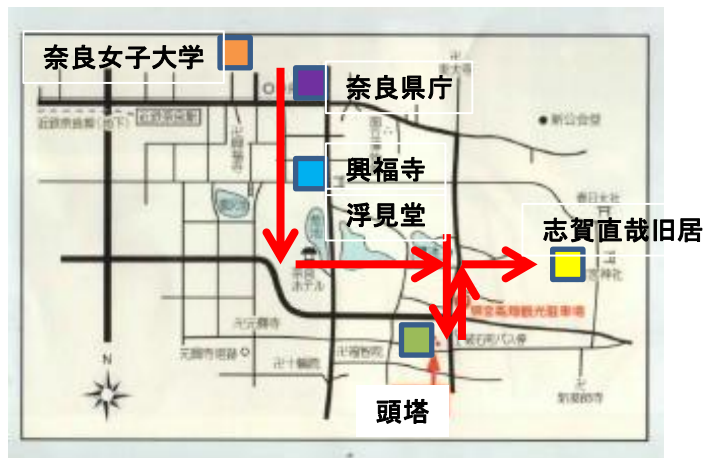


図. 今回の散策コース



写真4. 奈良女子大学記念館をバックに



写真5. 浮見堂散策

次に足を延ばしたのは、国指定史跡「頭塔」。古い民家の庭から入るような、まさに穴場。ゴールデンウィーク中でないと、開放しないそうです。(写真7)頭塔の歴史ですが、767年に東大寺の僧実忠が土塔を築いたと古文書には有り、その役割は五重の塔のように仏舎利を納める仏塔と考えられています。(同類の史跡は、関西2～3ヶ所だけ！)

頭塔上の石仏は、28体を数え、その後の発掘で新たに14体が発見され、うち計23体が重要文化財に指定されているとの事です。

そのような貴重な史跡「頭塔」ですが記者には仏様のマンションのように感じられ、(写真6)今も昔も同じだなあと思いました。(笑)



写真6. 上空より(パンフより)

最後に訪れたのは、志賀直哉旧居です。(学校法人 奈良学園 セミナーハウス)(写真8)

志賀直哉が、京都から奈良に移り住んだのは、大正14年。翌年、東洋芸術に傾注した志賀は、ここ奈良に数寄屋風と洋風を折中した家を建てました。

この家には、遠近法を取り入れた高畑サロンや、白木と赤松を組み合わせた梁など様々な趣向が凝らして有りました。また、説明員の方の話によると、建築の隅々に、「交流の窓」や当時では珍しかった「ダイニングキッチン」に人権尊重の家庭生活を完成させようとの心配りが見られるが、これは、幼少期祖母に育てられ生涯母のイメージを求めた白樺派:志賀直哉の家族への「溺れない愛」を表しているとのことでした。

Ⅲ 第3部 懇親会 17:30～19:30

皆さんの喉も涸れてきたところで、由緒あるそば処「観(かん)」で、西村幹事の司会のもと懇親会を開催しました。(写真9)

先ず今回初参加の、鎌田OB、三坪OBからのご挨拶に続き、齋藤智OBから今回の講評を頂きました。

次いで、茂木OBの元気なエールで、若き血を熱唱しました。

最後に、増田会長補佐より恒例の中締め言葉がありました。曰く……“小保方女史の話題を絡ませずとも、昭和から平成へ&文系から理系へ関西慶應寮和会も着実に軸足が進化しつつあり、益々充実するとの感を強く確信しました！ 将に＜視る・聞く・学ぶ＞でした！”



写真7. 国指定史跡[頭塔]



写真8 志賀直哉旧居 中庭

IV OFF-TIME

今回は、今期から幹事をお願いしている松尾幹事(S47経卒)にOFF-TIMEの過ごし方についてお聞きしました。

<松尾さんのお話>

64歳で退職、悠々閑々、時間を楽しむ生活になると思いきや意外と用事その他はあるもので、未だ達観するまでには至ってません。但し、四十数年間、朝7時には家を出ていたことを思えば本当に気楽ではあります。長期間続いている趣味は、ゴルフ、日々の散歩、読書、映画、庭いじりでしょうか。これらは皆さんも楽しんでられるし、各々の流儀、蘊蓄もおありなので省略します。

現在、力が入ってるのは海外旅行。関連会社に移り時間的余裕が出来た2005年から本格化し(年二回程度)、合計18回になります。これからは気力体力が(当然金力も)許す限りは続けたいです。独断でのお勧めポイントは、塩野七生さんの小説でイメージが膨らんでいたヴェネツィア、フィレンツェ等の街歩きや地中海の青さ、ルーブルなど質量ともに圧倒される美術館巡り、西部劇大好き人の私にとっての聖地であるモニュメントバレー、おのぼりさんとして登れる処に登ることその他枚挙にいとまなしです。当たり外れはあるものの海外旅行は面白いですよ。

(写真10) と笑顔で結ばれました。

V 編集後記

今回の講演会では、片桐OBと渡邊OBからは難しくなりがちな科学の話を、解り易く拝聴出来て、大変勉強になりました。お二人が科学の世界で日々健闘されているのは、日吉寄宿舍の誇りでもあります。今後、益々研究を極めて頂きたいと切望しています。

また、五月の奈良散策は、日頃足を運ばない穴場を巡ることが出来、これもまた楽しい思い出になりそうです。歴史ある社寺仏閣に恵まれた関西に住み慣れると、つい見過ごしてしまう宝の再発見でした。次回(今秋に開催予定)も楽しい企画にしていきますので、会員の皆様のご参加を、宜しく願います。

最後になりますが、お願いがあります。次回の寮和会会報の記事<寮生活の思い出>を、関西慶應寮和会から寄稿したいと考えています。つきまして、有志の方の投稿を募っていますので、広報:松永(075-331-8938)まで連絡を宜しく願います。

<<投稿締め切り7月末日につき、連絡は早めをお願いします>> 以上



写真9. 懇親会 そば処「観(かん)」



写真10. モニュメントバレーの松尾ご夫妻